

第3回慢性閉塞性肺疾患（COPD）の予防・早期発見に関する検討会の議事概要

1. 健診の場を活用した禁煙支援について

- ・ 様々な健診の場で喫煙している者に対して、禁煙指導するのは、比較的实施しやすいのではないかと。
- ・ 喫煙状況を問診票で事前に把握し、短時間のアドバイスをを行い、禁煙治療に誘導していくことが、健診の場面で実行可能性が高い。
- ・ 禁煙指導の効果により、禁煙率が高くなることが、確かめられている。
- ・ 禁煙の取組を行うことにより、禁煙の治療費はかかるが、保健指導の削減、医療費の削減効果が期待できるため、将来的には、保険者としては黒字になる。
- ・ 特定健診、特定保健指導においても、喫煙者については、本来目的としている体重減少、内臓脂肪減量の効果が出にくくなる。

2. COPDの普及・啓発について

- ・ 「COPD」という概念を広く普及させるには、ポイントが5つある。
第1に、ネーミング、第2に疾患の特徴に関する情報の整理、第3にターゲット、第4に広報全体のプランニング、第5に啓発における賛同者の獲得。
- ・ 「COPD」は人事、他人事だが、「肺年齢」だと自分事になるので、たばこを吸っていようといまいと、自分の肺年齢はだいたいどのくらいなのか気になるので、広く訴える用語としては良いのではないかと。